

みどりの風 NO.67

看護師川柳

ありがとう その一言が 糧になる（兼島柚葉）

発行・編集責任（緑風会会長 大矢正明）

＝投稿発言＝

患者同士いたわり、思いやり、助け合いましょう

太田メディカルクリニックで日々透析治療のお世話になっている私たち 125 名の患者のみなさん。透析に携わるスタッフのみなさんの「お願いします」「ありがとうございます」の声掛け、本来は患者の方から言うべき言葉がスタッフさんから聞けるのは、いかに患者をいたわり、思いやりがあるかということを感じますね。

患者にはいろんな症状を抱えた方々がいます。透析をしても健常者と変わらない元気な人、その一方、高齢で体力が落ち、車椅子のお世話になっている人、視力、聴力等が衰えスタッフさんのお世話になっている人・・・などを相手の看護がいかに大変か、スタッフさんの指示などにスムーズに応じられない患者さんにも、イライラ感なくいたわり、優しく応じて頂ける姿を拝見するにつけ感動します。

それに対して、私たち患者同士は、お互い思いやり、「おはよう」とか「こんにちは」「こんばんは」「お疲れさまでした」などの挨拶を交わせる間柄になっているのでしょうか？どの透析患者も障害を抱えているわけですから、患者同士のいたわり、思いやりでお互い助け合う雰囲気がこの太田メディカルクリニック透析室にあれば楽しい透析生活が送れると思います。

スムーズに行動出来ない仲間(患者)に対して大声を張り上げて暴言や暴力をふるったりすることがあっては絶対いけないと思います。（匿名患者より）

みどりの余話

匿名患者さんの発言を読んで

暴言・暴力はいけないという匿名様のご意見を聞いて思い出しました。私は37年間高校教師として働きしました。20代の若き頃、授業中生徒の「分かりません」という発言に対して「こんなことが分からんのかお前は」と生徒のせいにして怒ることができなかった自分、生徒が理解できないのは自分の教え方が拙いからだと思うタイプの教師だった。

その当時、生徒への体罰は当たり前、生徒に対して暴言を吐いても現在とはちがって問題視されなかった時代。自分のような暴言・体罰を振えない教師は、指導力がないと評価されていました。

大学四年間は大学紛争の時代で、ヘルメットをかぶった暴力学生の運動（全共闘）になじめなかった自分は暴力反対側の学生運動に賛同した。

非暴力を貫いた自分の教え子（60歳後半で保母だった）から「先生の授業が大好きでした」という便りを一昨年いただきました。

今から思うと学生時代の自分、高校教師時代の自分の考え方が生き方は決して間違いではなかったと思います。

どうしてそういう自分に育ったかという自分の両親の育て方が基本になっていると思います。幼き頃の自分はとてもおとなしい、可愛くない子供でした。ですから両親からひどく叱られることも、まして親にたたかれて育てられた記憶も全くありません。

現在、自分の三人の子供、六人の孫に囲まれていますが、体罰で孫たちを育てている気配をみじんも感じません。

今は居ない両親に感謝しなければと思うこの頃です。翻って医療現場における患者からの特に女性スタッフへのセクハラもあってはいけない一種の暴力ではないでしょうか。

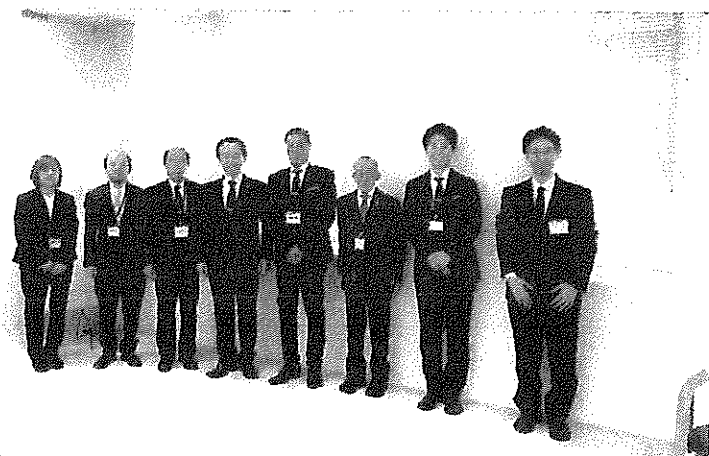
（2025.5.23 大矢）

青い鳥ハガキのご寄付 5/21
みなさんの御協力をお願いします。
5/21 現在 20 名の御協力です

緑風会会員数 72名 (5/20 現在)
組織率 58%
全患者数 125名
あなたも仲間にならな

岐腎協幹部が江崎県知事と懇談 福祉医療費助成制度への感謝及び継続の要望

2025年4月24日岐腎協幹部役員(田中会長ほか4名)が県庁を訪れ江崎岐阜県知事就任後初めて親しく懇談し、国会請願活動、CKD(慢性腎臓病)や腎移植などの啓発活動などについてパンフレット等を使いながら説明し、終始和やかな雰囲気ですべてを終えました。



江崎知事(左から4人目)から
左へ田中会長、高田事務局長
丹藤保健福祉部長、小山保健医療課長
右へ市原副会長、小島広報委員長
奥村事務局次長

第10回NPO岐腎協大会

治療費の公費負担継続要望を直訴

再びあの感動を



岐腎協設立41回大会 2014年6月開催

第50回岐腎協大会(仮称)

美濃加茂市文化会館かも〜るで開催決まる

5月11日に行われた可茂ブロック会議(可茂地区5患者会会長会議)において岐腎協理事会から要請のあった岐腎協大会を美濃加茂市で開催するかどうかが審議され種々の心配事項についても討議の末、賛成多数で開催することが決まりました。

開催日は2026(令和8)年6月7日(日)、会場は美濃加茂市文化会館かも〜る。1971(昭和46)年に岐腎協が設立されてから50回目の大会となる。

当日は県下から多くの透析患者、家族、透析医療に関わる医療関係者、国会議員、県議会議員の参加挨拶、地元的美濃加茂市長の歓迎挨拶のほか、主な催事は「患者の訴え」「医療講演」「楽しいアトラクション」などが予定されている。

具体的には、可茂ブロック会議が今後大会実行委員会として衣替えし、大会に向けて諸準備していくことになる。

再び 会員みなさんのご協力で大会を成功させましょう。あの感動を

前回(設立41回)大会参加者の声

「素晴らしい岐腎協大会ありがとうございました。何回も大会に参加してまいりましたが、このような感動を味わうことができたのは初めてです」。

『「人生とうた」のシンガー英樹さんのトークショー、あの声といい、楽しいおしゃべり、とてもすばらしく久しぶりに感動しました」。(岐腎協50周年記念誌「清流」より)